

インバウンドコラム

翻訳今昔

ウェブサイト多言語化 翻訳いろいろ メリットとデメリット

大阪メトロの英語サイトで、「堺筋線」が「サカイマッスライン」などと誤訳されているとして、ネットで大きく話題になったことをご存知でしょうか。マイクロソフトの自動翻訳をそのまま掲載してしまい、ページ閉鎖の事態に。他に「3 両目」を「3 Eyes」、駅名の「天下茶屋」が「World Teahouse」に誤訳されていました。(参照※1)

「堺筋線」は、固有名詞の「堺」と路線の「ライン」はがんばったのに、「筋」が「筋肉→muscle」となってしまい、台無しに。「3 両目」は、英語にはない、1 本、2 本や 1 個、2 個など数を表すとき、数えるものによって変える助数詞を翻訳できず、「3 つの両目」と訳。「天下茶屋」は「天下」が「World」、「茶屋」が「Teahouse」。間違っははませんが、地名としては間違っています。機械翻訳が苦手な固有名詞などは、対訳リストを作成する必要があります。

近年、著しく精度が向上した機械翻訳ですが、まだまだまだ人力翻訳にはかないません。そして、人力翻訳もクラウドソーシングから、原文をあますことなく翻訳するスタンダードな翻訳、そして、トランスクリエーションまたはコピーアダプトとも呼ばれる、文化背景やキャッチーさまで汲み取り、原文から大きく飛躍させた翻訳まで様々です。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、多くの日本企業が多言語化対応を急いでいます。(参照※2)新技術を上手く使いコスト削減できるところは削減し、大事なところはお金をかけ、伝わる&刺さる多言語サイト構築がキモとなります。最近の翻訳の種類とそのメリット・注意点を簡単に表にまとめました。ご参照ください。

コスト	翻訳の種類	メリット	注意点	品質
安い	機械翻訳	瞬時に無料または安価で多言語対応できる。	翻訳漏れや誤訳など、その他の翻訳方法と比較して精度が低い。 固有名詞やキャッチコピーの翻訳は苦手です。	低い
↓	クラウドソーシング	安価でスピーディな人力翻訳。	量が多い場合、翻訳が分業になってしまうため、翻訳のトーンやマナーが統一されない可能性があります。それを避けるため、詳細なスタイルガイドや用語集を準備する必要があります。	↓
高い	翻訳会社	専門性の高い文章も高品質な翻訳が可能です。 キャッチコピーでは、例えば、インテルの「Intel inside。」を「インテル、はいてる」。名訳です。	丁寧な翻訳の為、時間とコストがかかります。 企業理念、キャッチコピー、専門性の高い文文のかなど、原文の種類や訳文の用途により対応できる翻訳会社が限られます。	高い

出典元:AUN

※1 堺筋を「サカイマッスル」と誤訳 | 共同通信

<https://this.kiji.is/480356205338035297>

※2 五輪向け多言語対応 | NIKKEI STYLE

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO42523030V10C19A3EA4001/>